

「府中市学校施設改築・長寿命化改修計画」及び
「府中市立学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方」について

1 府中市学校施設改築・長寿命化改修計画（令和2年1月）

市立小・中学校の施設については、築後40年以上が経過し、今後、一斉に老朽化を迎えることから、学校施設の改築や長寿命化を計画的に実施することが重要かつ喫緊の課題となっていることを踏まえ、老朽化対策を着実かつ計画的に推進していくための計画として策定したものです。

同計画では、児童・生徒数の増加による教室不足やバリアフリー化、新たな教育ニーズや学習形態への対応など教育環境の充実を図ること、地域住民にとっての生涯学習や文化・スポーツ活動の場、災害時の避難所としての役割など、地域に求められる様々な役割や機能を備えた学校づくりを行うこと、さらに、将来の児童・生徒数の増減や他の公共施設の老朽化対策の取組など、学校を取り巻く様々な状況の変化に柔軟に対応できる学校とすること、などが盛り込まれています。

改築の具体的な内容としては、令和32（2050）年度までに各市立小・中学校の施設を順次改築する予定としているほか、小学生の放課後の居場所となる学童クラブ及び放課後子ども教室について、学校施設と一体的に整備し複合化することとしています。

図表 1 市立小学校の改築順序（令和4年4月時点）

グループ		学校名
早期改築着手校（1校）		府中八小（改築中）
第1グループ （8校）	次期実施校	府中三小、府中六小（基本設計中）
	第三期改築実施校	府中四小、府中五小
	（改築時期未定）	府中七小、府中九小、武蔵台小、矢崎小
第2グループ （13校）	（改築時期未定）	府中一小、府中二小、府中十小、住吉小、新町小、本宿小、白糸台小、若松小、小柳小、南白糸台小、四谷小、南町小、日新小

2 府中市立学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方（令和3年11月）

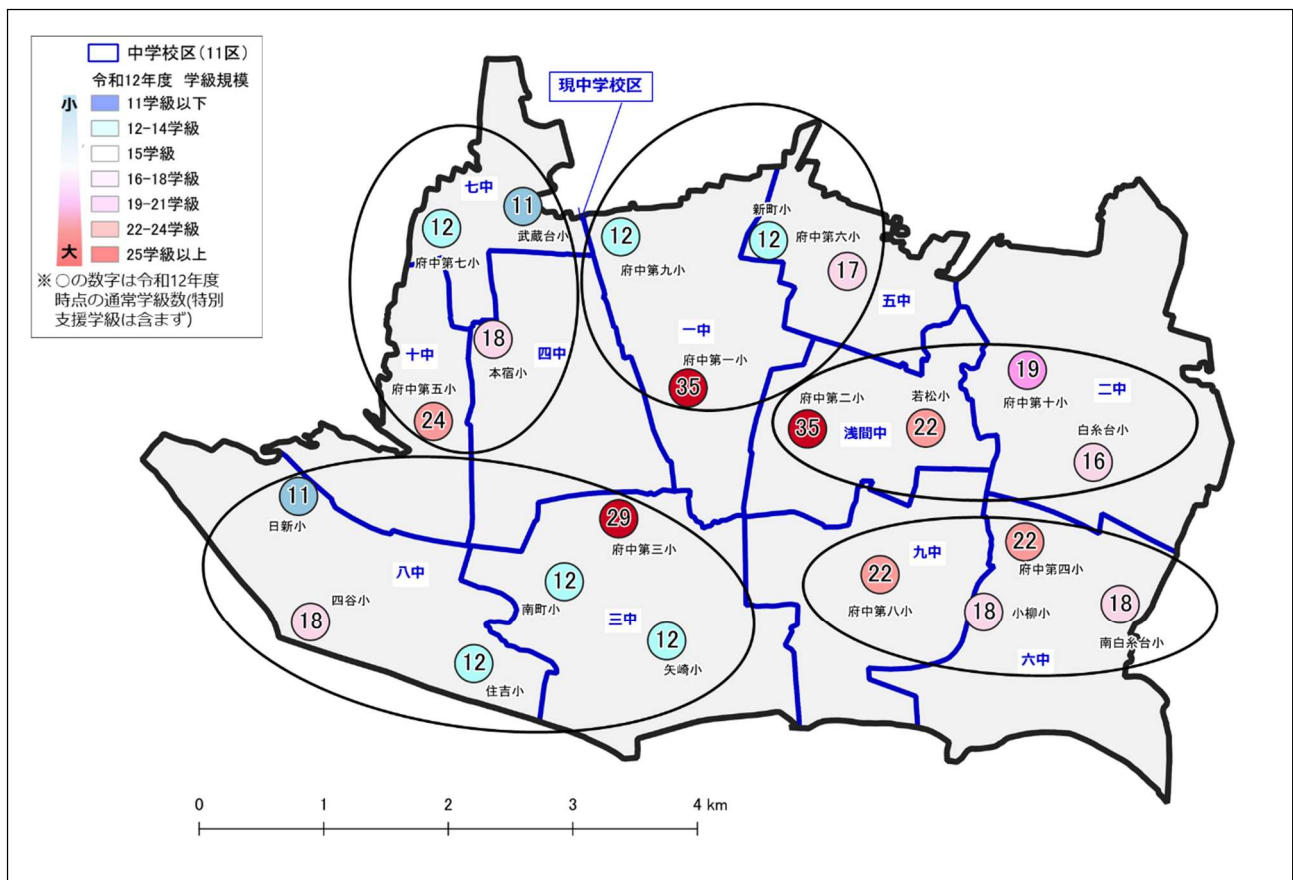
市立小・中学校を適正な規模で適正に配置して整備し、児童生徒の良好な教育環境の維持や教員の指導体制の充実、学校の円滑な運営のため、市内年少人口の推移や国の定める小・中学校の標準規模（12学級以上18学級以下）などを考慮し、本市における市立小・中学校の適正規模・適正配置を進めていくための基本的な考え方を整理したものです。

小学校については、現状における各学校の学級数や学校運営の観点などから、各学年2学級以上、学校全体で12学級以上24学級以下が望ましいこと、児童が安全に安心して通学することができるよう安全性や防犯性、特に小学校低学年の通学に要する時間と通学時の負担軽減などを考慮し、通学距離は2キロメートル以内が妥当であること、地域とのつながりや学校規模等を考慮して適正規模・適正配置を推進するとともに、学校の改築事業等を活用するなど、近隣学校と連携して課題解決を図るため、地域コミュニティの拠点である文化センター圏域なども考慮し市内の小学校を5つのグループに分類すること、などを定めています。

図表 2 適正規模・適正配置に見直すためのグループ分け

グループ区域	小学校	中学校
府中四中、府中七中、府中十中	府中五小、府中七小、武蔵台小、本宿小	府中四中、府中七中、府中十中
府中一中、府中五中	府中一小、府中六小、府中九小、新町小	府中一中、府中五中
府中二中、浅間中	府中二小、府中十小、白糸台小、若松小	府中二中、浅間中
府中三中、府中八中	府中三小、住吉小、矢崎小、四谷小、 南町小、日新小	府中三中、府中八中
府中六中、府中九中	府中四小、府中八小、小柳小、南白糸台小	府中六中、府中九中

図表 3 適正規模・適正配置に見直すためのグループ分け（イメージ・小学校）



※ 令和12(2030)年度の学級数の想定

最大は府中第一小・府中第二小の35学級、最小は武蔵台小・日新小の11学級